

タイペイで考える
—視察シリーズV—

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

「日本の生産システムや工業製品は、世界最高水準で実に素晴らしい。なのに、日本人はなぜ英語を使いこなすことが非常に苦手なのか」という質問を、11月に2回出かけたタイペイでの「中小企業振興のための国際会議」で10人以上の外国からの代表から受けた。

今回は、タイペイで考えたことを報告させて頂く。

2. 英語が使いこなせなくて損をし続けている日本人

①今回の会議で何十回となく耳にしたのは、「国家の利益(国益)」という言葉だ。「自分たちの国は自分たちで守り、自分たちの努力(自己責任・自助努力)で作りに上げていく。そのために教育制度を整え、子どもたちを立派に教育し、また小さな会社の中くらいの会社(500名規模くらいの中堅企業)になることを大いに奨励、失業者を吸収したり税収を上げることが大事だ。中小企業の育成は、一国の産業経済を考える上で非常に重要だ。国益(国家の利益)を考えることが、一人一人の国民生活を向上させることに直結する。」

何人かのディスカッションになると、必ずこのような発言を熱っぽくする代表者がいた。国家繁栄のため産業をおこす、そのために中小企業の振興が大事だなどと言われると、明治維新から大正時代のころを思い出すが、世界の国々の中には、貧困からの脱却が最大のテーマの国も多い。貧困からはとりあえず脱却はしたが、物質的な豊かさをこれから追い求めることが国のテーマである国も、さらに多い。何年前かにベトナムに2回ほど出かけた折りに、わらぶきの高床式の住居を見て、ある団員が「あのような形の住居がベトナムには一番合っているのですね」と何気なく案内の人に質問したら、「今一番ほしいのはエアコンつきの家です」と言い返されたことを思い出す。別の経済視察団でミャンマーに行った時、団員の一人が「ミャンマーの人は裸足でスリッパを履くのが好きなのですね」と言ったら、「我々だって靴下の上に革靴が履ければどんなに歩くのに楽か知っていますよ。買いたくても買えないからスリッパを履いているだけです」と案内の人から言われたことを思い出した。

日本国憲法 25 五条にいう「健康で文化的な最低限度の生活」というレベルを実現するために、国民を教育して産業をおこし、仕事を発展させ、国民に収入を得させることが大切である国が、まだまだ世界には 100 以上ある。

②日本では「死語」になってしまった「国益」という言葉を通して、もう一度この国のあり方を原点から考え直すことも必要であろう。

*最近では、霞が関の国家公務員でさえ、「国の利益」「国益」などというと、嫌悪感を示す人も多い。マスコミの人、ジャーナリストの人は、「国益」「国家の利益」などという言葉は見るのも聞

くのも嫌、だから自分の書く記事には一切使いたくないという人が多い。

- *ただ私は、「国益」「国家の利益」という言葉を捨て、「私益」「一部の利益」ばかりを求めているのかと時々疑問に思っていた。それがタイペイに来てみると、多くの国の代表者が「国家のために」「国民の生活レベル向上のために」と中小企業を振興させなければとの熱い思いをもって議論に参加されておられた。物事を原点から考える良いきっかけが得られ、非常に勉強になった。
- *「国益」→「家父長国家」→「軍備増強」→「侵略」という図式でしか物事が考えられないのでは、物事の本質を見誤ると思う。

③「英語」はやはり必要だ。英語だけで行われた最初の会議の1日目は、日本人は私一人であったので、どんどん質問され、シドロモドロではあったが、答えなければならなかった。

報告者が予めレポートを書いており、それに基づき20分近く報告。その内容につき各国の代表者がどんどん質問をし、報告者が答えていく。時々参加者同士のディスカッションが始まる。休み時間やその日の会議が終了すると、質問や議論し足りないことをすべて英語で話し合う。こんな形で会議は進められた。

予め渡されたレポートは二つの会議とも300ページ以上になり、それらを読むのに2回とも会場のホテルから一歩も出ることはできなかった。(外へ出たのは、セブンイレブンやファミリーマートへおにぎりを買に行った時だけだった。)

「私の場合、英語の専門家ではないので…」などと言い訳している余裕は一切ない。どこの国の人でも、いやしくも高校を卒業している人はみんな英語がよく聞き取れ、よく話せ、よく読め、よく書ける。まして短大や大学まで出ているのに、相手が何を言っているのかわからない、配られたものがドンドン読めない、質問ができない、自分の意見が発表できない、自分の考えが書いて発表できないでは、本当に短大や大学を出たのですかと逆に質問される。

「なぜあれだけ優れた工業製品を作り出せる日本人が、あれほど英語がへたなのか」は、どんな会議でも必ず話題になる。私もそんなには上手ではないが、昨年10月から上智大学の社会人コースで週何回か英語中級クラスと上級クラスをとっているためか、相手が言っていることは大体聞き取れるようになったし、簡単なことなら言えるので、「最近ではそうでもなくなってきたが、日本の英語の授業は大半が日本語で行なわれてきたので」と答えると、「それでやっと日本人が英語が苦手なのかわかった」と、ここでも何人かの人から言われた。

④ただ、今の中高生は、学校でもかなり口頭練習つまり聞き取り、会話や自己表現のプログラムが組まれているので、それほど心配はない。問題は、かなり前に中学や高校で英語を教わった25歳以上の人だ。学校時代に英語を教えて下さった先生方を恨んでも仕方ない。その先生だって、英語による授業を教員養成課程で受けてこなかったのだから。ではどうするか。一番良いのは、先生について教わることだ。英会話学校でもよい。短大や大学の公開講座でもよい。(社会人の単位聴講を認めているところが多いので、各短大や大学に問い合わせ、4月からでも入学なさるとよい。)

放送大学などは家でも手軽に勉強できるし、スクーリングもある。(大きな書店に案内書が置いてある。)NHKのラジオ・テレビでは、1日に何時間も英語の講座を放送しているので、今から心掛けて調べ上げ、4月から勉強したらよい。

自分一人でモクモクやろうとしても長続きするのは、よほど意思の強い場合だけだから、どこかのクラスに入り、先生に励ましてもらい、クラスメイトと励まし合うのがいい。

*社会人を教える先生は、「励ますこと」が誰よりも上手でなければならない。

中学生や高校生と違って、25歳以上の人は、1回や2回教わったり勉強しただけでは全て忘れてしまうので、毎回勉強が終了したらテキストを必ず復習して、意味調べ、読む練習、書く練習、暗記などを手ぬかりなく行わねばならない。一度よく勉強してもそれっきりにしなくて、毎日1ページから勉強した所までテキストを大きな声で読むことも忘れてはならない。日本語の新聞と同じ系列の英字新聞を家でとり、日本語の新聞を十分読んでから記事を選び英字新聞を1日1時間以上は辞書を引ながら精読すること。(記事をカッターで切り、A5版の大きなノートに糊で張り付け、調べたことをどんどん書き込むこと。辞書は研究社の「リーダーズ英和辞典」、それでも足りなければ「リーダーズ・プラス英和辞典」を使うこと。机上版を買えば辞書のせいで目が悪くならない。)

ノートに書いたことはできるだけ何回も読み直すと、飛躍的に単語量が増える。大人でも書けなそうな単語は書く練習をおこたらないこと。

- ⑤英語をマスターしようと思ったら、これから1年間、1日3～4時間は英語と接するよう努めた方がよい。移動中の自動車の中では英語の発音練習テープを聞くこと。散歩中はウォークマンで聞き取りや発声の練習をすること。新聞は英字新聞も読むこと。日記は英語でつけること。テレビニュースは2ヵ国語のうち、英語を聞くこと。英会話学校、大学の聴講、放送大学、テレビやラジオの英語番組等のうち、教材やテキストのあるものを一つくらいは継続して勉強すること。「努力は必ず報われる」のが語学の勉強であることをお忘れなく。

3. おわりに

景気が低迷し、「大失業時代」に突入する可能性が高い。国益も大切だが、とりあえず自分が失業者にならないためにはどうしたらよいか考えることが大事だ。

英語が自由に使いこなせれば、とりあえず使いこなせない人と比べ失業する(リストラ対象となる)可能性はかなり低くなる。

ある会社で英語が使いこなせる人数が多ければ多いほど、あらゆる面で有利になるため倒産や事業縮小の可能性も激減する。

ある街の総人口のうち、例えば10%の人が実用英語検定の2級に合格をし、準1級に5%の人が合格しているようだと、その街の「英語力」は他の地域と比較し抜きん出ているため、「地域力」が強く「陥没」の可能性は低い。

日本全体の英語力がもっともっと向上すれば、これだけの工業力があるのだから、どんなに他の通貨が揺らいでも、株価が下がっても、影響されることは少ない。他の国々、世界のために役だてることも多い。

全身全霊を傾け、英語が使いこなせるよう、努力する必要があると強く感じたタイプであった。がんばりましょう。

*タイプには

APEC SME MARKET DEVELOPMENT SEMINAR と ISBC (INTERNATIONAL SMALL BUSINESS CONGRESS) のため出かけた。